

イヌワシの概要

1. 分類

タカ目 タカ科 イヌワシ (*Aquila chrysaetos japonica*)



2. 形態的特徴及び生物学的特性

- ・ 全長で81cm～89cm、翼開長168～213cm
- ・ ノウサギ、ヤマドリ、ヘビ類等を主な食料とするが、カモシカやニホンジカの幼獣等も捕食
- ・ つがいごとに広い行動圏(20～250km²平均60 km²(※))を持ち、その中に営巣場所や採餌場所を含む
- ・ 1～3月頃に産卵し、抱卵は40～45日程度、巣内育雛期70～94日程度(※)
- ・ 概ね年間を通じ雌雄2羽で生活を共にし、山地帯に生息する

3. 分布状況

- ・ 留鳥として北海道、本州、四国、九州に分布。本州では東北地方及び中部地方から北陸地方の日本海側を中心に生息。北海道、四国、九州ではごくわずかに生息。

4. 現在の生息個体数と繁殖状況

- ・ 650羽と推定(環境省希少猛禽類調査(H16年))、約500羽と推定(※)
- ・ 繁殖成功率(H27年)は、全国平均11%(※)である。

5. 生息を脅かす要因

森林や草原の手入れ不足による狩場適地及び餌動物の生息環境の減少、ダム建設や林道工事などの大規模開発や、その他レジャー等の不用意な接近による攪乱(特に繁殖初期における営巣放棄)が生息環境の減少要因と考えられている。農薬や鉛などの化学物質の蓄積による影響を示唆する意見もある。近年は風力発電施設建設による生息環境減少やバードストライクも要因として指摘されている。

6. 保護に関する指定及び計画等

絶滅危惧IB類(環境省 レッドリスト2020)、国の天然記念物(文化財保護法)

- ・ H5(1993)年 国内希少野生動植物種に指定
- ・ H8(1996)年 「イヌワシ保護増殖事業計画」策定
- ・ H27(2015)年 「イヌワシ保護増殖事業マスタープラン」策定
- ・ R1(2019)年 「将来的な野生復帰に備えたイヌワシ飼育下個体群の管理方針」策定
- ・ R3(2021)年 「イヌワシ生息地拡大・改善に向けた全体目標」公表

※は日本イヌワシ研究会公表のデータによる